

令和2年度東京都立三田高等学校 学校経営報告

Have Wings And Fly High! - 教養・探究・立志そして世界へ -
知的探究イノベータ推進事業支援

目指す学校<教養・探究・立志そして世界へ>

(1) 学校の教育目標＝教養人・リーダー・開拓者の育成	(2) 目指す生徒像＝自律・自学・チーム三田の力で高い志の進路実現	(3) 学校の教育目標を達成するための基本方針
ア 幅広くしなやかな知性と潤い豊かな感性を持つ教養人 イ 自主・創造の意欲と忍耐力・協調性との調和のとれた高い徳性を持つリーダー ウ 自己を厳しく律し常に進取の気概を持って社会貢献できる開拓者	ア 品位ある生活態度と社会性を備えた生徒(自律) イ 明確な目的意識をもって自ら学業に励む生徒(自学) ウ 特別活動を通して学校への帰属意識を高め、進んで切磋琢磨する人間関係を築く生徒(チーム力)	ア 問題・課題の発見から解決に到る主体的な学びを通し、個性・独創性の発現につながる質の高い学力を育む。 イ 体験活動、集団活動を通して、自主・自律の心、集団や社会の一員として自覚、社会貢献の精神を育む。 ウ キャリア教育を通して自己：理解を促し、チャレンジ精神や進路実現に必要な資質能力を育む。 エ 国際理解教育を推進するとともにわが国の伝統・文化に対する理解を促し、真の国際人・教養人を育成する。

組織	●課題(結果の原因)と○次年度へ向けて A: 大いに達成 B: 概ね達成 C: 達成できなかった		
	中期的目標と方策	全体	(1) 「主体的な学び」の構築(学習指導)
		数値目標	○学校評価アンケート「学習指導の満足」の生徒肯定評価85% 結果: 89%であった。
	コメント	●授業で一方向的に与える部分は減ってきたが、主体的な学び・深い学びの構築までは達していない。 ●「なぜ、なぜ」という探究的な学びは、より質を向上させ、組織的に対応していくことが課題である。 ○感染症対策の一つとして、オンデマンド授業の実施など、チームズを有効活用していく。 ○保健の授業以外にも生徒が生徒を教える授業を実施する。 ○観点別評価が実施できるようにする。	
全体	(2) 自律・自学・チーム力による高い志の進路実現(生徒指導・進路指導)		
数値目標	○学校評価アンケート「自ら学習」の生徒肯定評価80% 結果: 61%であった。	C	
コメント	●生徒の学習時間は多いとは言えず、動機づけをしっかりと行い、生徒の進路希望に見合った学習習慣を身に付けさせることが課題である。 ●やりたい・やりたいことを持たせるためのキャリア教育を充実させる必要がある。 ○SDGsをより意識させ、行動を取り、持続可能な社会の中での進路実現へと向かわせていく。 ○生徒会、学校行事、部活動等を、より生徒主体の活動としていき、思考を深めさせる。		

	(3) 戦略的な広報活動の展開	数値目標	○応募倍率2倍の維持 ○ホームページの更新の増加 結果：2.51倍であった。ホームページの更新回数は大幅に増加した。	A
		コメント	●感染症対策を講じながらの学校説明会等を行ったが、人数制限の影響で苦情が多く寄せられた。 ●現在ある広報活動の質を落とすことなく継続していくことが課題である。 ○次年度も人数制限が必要であるという前提で学校説明会を実施していく。 ○HPによる情報発信をより効果的に多く行っていく。	
	(4) 信頼に基づく安心・安全な学校環境	数値目標	○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% ○サービス事故ゼロの維持 結果：95%であった。サービス事故は0であった。	B
		コメント	●新しい生活様式を実行して、感染症対策の徹底を継続していくことが課題である。 ●生徒のアンケートから大きな声で怒鳴られて、恐怖感・不快感を持った生徒がいた。 ○体罰根絶、いじめの未然防止、サービス事故ゼロ等に向けて、毎月、徹底を図る。 ○会議を勤務時間内に終えるなど、感染症対策を含めて、ライフ・ワーク・バランスのある職務に取り組む。	
今年度の取組	各教科 「高い志の進路実現」を支える学習指導を展開する	数値目標	○学校評価アンケート「学習指導の満足」の生徒肯定評価85% 結果：89%であった。	B
		コメント	●感染症対策を講じながら、生徒の主体性、自律性を喚起し続けていくことが課題である。 ●ペアやグループでの学びあいの機会を十分に与えられなかった。自宅学習へのサポートが不十分であった。 ○ICTの活用も含め、自学を促進するための授業や課題の在り方について検討・実践していく。 ○Classi、Microsoft Teamsを活用して授業と自宅学習の住み分けをし、授業での学びあいの時間を確保する。また、調べ方や学び方の指導をすることで、自立した学習者を育てる。 ○限られた施設の中でも工夫して実験・実習の内容を精査して実施していく。	
各学年	3年間を見通した、継続的・計画的な指導を通じて、生徒一人一人の高い志に根ざした進路希望の実現を図る。	数値目標	○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% 結果：95%であった。	B
		コメント	●主体的な学びの推進については、オンライン・オンデマンド学習は上手く活用できたが、グループ学習は不十分であった。 ●国際理解教育や進路指導については、コロナ禍の影響で様々な講演会等が中止となってしまったが、新しい様式となる再彩祭を生み出すなど、ほとんどの生徒については前向きな姿勢を維持させることができた。 ●学年を超えての行事等ができなかったため、一体となってより高い目標に挑む充実感を十分に形成できとは言えない。 ○来年度も様々な教育活動が制限されるが、可能な限り生徒の主体的な活動と様々な体験を経験させていく。 ○進路意識の啓発に努め、学年を超えての交流を深め、生徒の進路意識を醸成していく。 ○スクールカウンセラーと連携を図り、担任並びに学校全体が一体となって生徒一人一人をサポートする。 ○今年度同様、学年と進路指導部との連携を密にし、面談等の取組を充実させ、より高みへ挑戦する生徒を増加させる。	

教務部・ 教育情報部	「高い志の進路希望」の実現を図る特色ある教育課程を管理する。	数値目標	○入学選抜業務に関する事故ゼロ ○「新学習指導要領実施までのスケジュール」の遂行 結果：新教育課程もでき、スケジュール通り進められた。	B
		コメント	●入学者選抜業務において、コロナ対応による急激な変化に対応し、滞りなく行うことができたが、課題もあったので、引継ぎをしっかりとしておく。 ○新教育課程実施に向け、授業数や教員数のカウントなどを行い、計画を立てておく必要がある。 ○観点別評価ができるように教科主任会を中心に進めていく。 ○委員会・ICTリーダーを中心に、チームズを活用した深い学びに挑戦していく。	
生活指導部	学校生活全体を通して、集団や社会の一員として、自律・自立した生徒の育成を図る。	数値目標	○学校評価アンケート「学校行事」の生徒肯定評価85% ○遅刻の前年度比の減少 結果：87%であった。 感染症による出席停止等が多く、比較はできないが、減少したのは事実である。	B
		コメント	●ほとんどの学校行事を行うことができなかった。時間を守ることの重要性を引き続き徹底させていく。 ○遅刻者数の減少に向けて生徒へ自覚を促し、学校全体で取り組む。 ○新しい生活様式での学校行事の実施に向けて、生徒主体に考えさせ、実現へ向かわせる。	
保健部	生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。	数値目標	○5月中旬までに1年生入学時全員面接終了 ○生徒理解のための研修開催（年2回以上） 結果：1年生の全員面接は実施できた。SCとの連携もスムーズであった。 生徒理解のための研修会は感染症の影響で実施できなかった。	B
		コメント	●感染防止の観点からゴミは持ち帰り、行事の多くは中止となったため、整理委員会の活動の場が減少した。 ●感染症が収束しない場合、専門医を招いての事例検討・教育相談会をどのように実施するかが課題である。 ○ゴミの持ち帰りはほぼ達成されているので今後も継続し、整理委員会の活動を新たに広げていく。 ○事例検討・教育相談会が実施できるよう、方法を模索する。	
進路指導部	教養人の育成を目指すことにより、「高い志の進路実現」を促す。	数値目標	○進学実績の維持（ ）は浪人も含めた数値 結果：国公立大学37名（53名）、早慶上理大84名（104名）、GMARCH295名	B
		コメント	●感染症の影響により、進路ガイダンスなどの集会等が制限され、集会の分散実施や進路通信・動画配信等を行ってきたが、入試制度の急な変更による対応や時間的な制約もあり十分とは言えない面もあった。 ○従来から実施していた進路ガイダンスや進路通信に加えて、ICT機器をはじめとするデジタルツールを活用していくことで、生徒が情報を「自主的かつ的確に集められるような体制」を、学校全体で構築していく。 ○高い志を持たせ、ブレない進路指導を継続していく。	
国際教育部	本校の特色である国際理解教育の推進によって、生徒の幅広い「高い志の進路実現」につなげる。	数値目標	○学校評価アンケート「世界に向けて視野を広げる教育」の生徒肯定評価80% 結果：85%であった。	B
		コメント	●実際の国際交流が実施できない中、今後この肯定感は低下する恐れがある。この数字は各教科担当による日々の意識的な取り組みによるものと考えられる。 ○オンラインによる交流も積極的に導入し、生徒の意識を維持、向上させることが必要である。 ○時代の変化やSDGsを意識した各教科での国際理解教育を継続していく。	

庶務部	地域に開かれた学校作りと学校環境の整備を推進する。	数値目標	○校内説明会参加者数延べ5000人 ○応募倍率2倍の維持 結果：人数制限により2000人であった。 応募倍率は2.51倍であった。	A
		コメント	●新型コロナ対策によって非常に制約の多い授業見学や学校説明会や式典の開催を余儀なくされた。 ●中学生が十分に見学できない状況の中でどうやって学校の魅力や生徒の様子を伝えていくかが課題である。 ○ウェブサイトによる情報発信により中学生への広報活動をより充実させていく。 ○見学会や説明会は今年度並みの制約があることを前提に、日程ややり方を調整・工夫していく。	
経営企画室	学校経営へ積極的に参画し、円滑な教育活動を支援する。	数値目標	○「ガイドラインステップ3」まで達成 ○予算執行におけるセンター執行率60% 結果：センター執行率60%であった。	B
		コメント	●自律経営推進予算の補正予算を活用して、コロナウィルス感染症対策や行事計画の変更等に柔軟に対応したが、さらに最大限の教育効果があげられるよう予算執行の面から支援を行うことが課題である。 ●老朽化が著しい校舎の維持と、生徒の安全を最優先した環境整備が課題である。 ○自律経営推進予算と推進校予算を有効活用し、オンデマンド授業や探究学習・国際理解教育等を支援する。 ○施工予定の体育館空調設置工事等を、教育活動に支障なく安全に配慮して実施する。	